

村政問題

問 2期目の抱負と取り組みは

答 協働の村づくりは時代の流れ



田中榮一議員

【2期目の取り組み】

問 村民との協働を抱負としているが。

村長 住民が行政に求めるニーズが多様化し、サービスの提供は、質的・量的にも限界が来ています。こうした課題の解決や行政サービスをするためには、住民、行政区、自治体との協働による村づくりが時代の流れととらえ、そのための取り組みを進めていかねばとの観点から3つのことを考えています。

1つは、村民が個人としてやることを自ら取り組む、自助の意識。2つは、個人では



ふるさと納税利用の看板

できないことを地域としてやるべきことは地域が担う、互助の意識。3つは、村民や地域でも出来ないことを行政が担う、公助の意識。こうした意識が高まり、互いに自立することができれば、生産性につながる論議が深まり、透明性の高い村政運営につながるものと確信しています。白馬で生まれ育った人も、この白馬に移り住んできた人も互いに融和し、支えあい、この白馬での日々の生活に豊かさと喜びを感じ、これからも住み続けたいと思う、そんな村の構築を目指し村政運営に取り組んでまいりたいと思っています。

問 村民から信頼され、期待に応える職員の育成も村長としての大切な役割では。

村長 常に良質なサービスを提供できる行政の窓口としての心構えを話し、その実行を期待しています。行政も自立を求められる時代になり、定期的にそれぞれの道の専門化を招いた職員教育を実施し、自立のための職員教育を進め、村民から信頼されるにふさわしい職員となるよう、人材育成に一生懸命取り組んでいきます。

問 村長としてどんな職員になつてほしいか。

村長 村の厳しい財政状況を厳しく受け止め、村民のための奉仕者であることを認識し、村民目線で向き合い、村民の声に素直に耳を傾ける職員であってほしいと思います。

問 協力的に、積極的にやすために、積極的に呼びかけをすべきと思うが、その取り組みは。

村長 現在、村の公式ホームページで、「ふるさと白馬村への応援寄附」として掲載しており、長野県のホームページからもアクセスできるようになっています。(自治体に寄附をした場合、5千円を超える部分について、税制上の優遇措置である控除を受けられます。いわゆる、ふるさと納税制度が制度化されています)